

事業群評価調書(平成29年度実施)

基本戦略名	9 快適で安全・安心な暮らしをつくる	事業群主管所属	環境部自然環境課
施策名	(7) 人と自然が共生する地域づくり	課(室)長名	田中 荘一
事業群名	多様な主体による長崎の生物多様性の保全	事業群関係課(室)	
事業群名	野生鳥獣と共存した地域づくりの推進		

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)					(取組項目)																												
<p>ツシヤママネコをはじめとした希少な野生生物の保護対策を進めるとともに、本県の特徴である美しい海や里地里山、島々のかげがえのない自然等の保全・活用を図るため、行政や市民団体をはじめとした多様な主体による保全活動を推進・支援します。</p> <p>人と野生鳥獣が共存できる地域づくりを進めるため、ニホンジカをはじめとした野生鳥獣の管理を進めるとともに、ニホンジカ等の食害によって被害を受けている希少野生動植物を保全し、自然資源としての活用を図ります。</p>					<p>希少野生動植物種保存地域の指定などによる長崎県を特徴付ける動植物種や生態系の保全(事業群)</p> <p>生物多様性に関する基礎データの収集・整備(事業群)</p> <p>行政、民間、NPOなど、多様な主体による保全活動の推進・支援(事業群)</p> <p>シカの捕獲等管理強化による野生鳥獣の食害によって被害を受けている希少野生動植物の保全(事業群)</p>																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">指 標</th> <th>最終目標 (H32)</th> <th>目標 (H28)</th> <th>実績 (H28)</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">事業群</td> <td>生物多様性保全に資する野生動植物の保全のための事業実施数(累計)</td> <td>55件</td> <td>43件</td> <td>43件</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>対馬地域におけるシカの捕獲頭数</td> <td>7,000頭 (毎年度)</td> <td>7,000頭</td> <td>4,903頭</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					指 標		最終目標 (H32)	目標 (H28)	実績 (H28)	達成率	事業群	生物多様性保全に資する野生動植物の保全のための事業実施数(累計)	55件	43件	43件	100%	対馬地域におけるシカの捕獲頭数	7,000頭 (毎年度)	7,000頭	4,903頭	70%	その他											(進捗状況の分析)
指 標		最終目標 (H32)	目標 (H28)	実績 (H28)	達成率																												
事業群	生物多様性保全に資する野生動植物の保全のための事業実施数(累計)	55件	43件	43件	100%																												
	対馬地域におけるシカの捕獲頭数	7,000頭 (毎年度)	7,000頭	4,903頭	70%																												
その他																																	
<p>民間団体等の取組への支援及び県事業による自然環境保全対策工事等の実施により、目標を満たした。平成28年度は有害鳥獣捕獲、狩猟及び指定管理鳥獣捕獲等事業によりシカの捕獲がなされた。実績は目標値より低かったが、前年度より約500頭多く捕獲出来た。捕獲圧は従来どおり強く掛けられており、捕獲数が目標値より低いのは、これまで継続的な捕獲圧が掛けられてきた効果や、シカの生息状況、生息環境の変化等の要因が考えられ、今後とも生息状況の推移を注視するとともに、さらに捕獲を推進していく。</p>																																	

2. 28年度取組実績(H29新規・補正は参考記載)

取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業概要 28年度事業の実施状況 (29年度新規・補正は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				28年度事業の成果等	中核事業		
			H28実績	一般財源	人件費(参考)		事業対象	指標	主な目標	H28目標			H28実績	達成率
			H29計画	一般財源	人件費(参考)					H29目標				
取組項目	鳥獣保護費 自然環境課		4,090	4,090	12,299	一般県民、対馬市内小中学生、野生生物センター来訪者 鳥獣保護区の設定・管理、ガンカモ調査及び鳥インフルエンザ対策の実施、対馬野生生物センターにおける展示解説及び小中学生を対象とした講演会を実施した。	活動指標	探鳥会の開催(回)	1	0	0%	新規に鳥獣保護区を1地区指定し、従前の面積を増やした。年間を通じ対馬野生生物センターで解説活動を実施し、対馬の小中学生を対象とした講演会を10回実施した。探鳥会は県内で野鳥の鳥インフルエンザウイルスが確認されたため、開催をとりやめた。 前年以上の鳥獣保護管理員の委嘱を行い、年間を通じた鳥獣保護区等の巡視により、保護区での違反発生もなかった。 ツシヤママネコの生息状況調査を全60ルートで行うとともに、モニタリング評価会議を開催した。また交通事故防止キャンペーン等の保護活動を実施した。		
			4,544	4,544	12,348		成果指標	県指定鳥獣保護区面積(ha)	41,975	42,028	100%			
	狩猟取締費 自然環境課		4,495	4,495	804	一般県民、狩猟者、有害捕獲従事者、農林事業者 鳥獣保護管理員による巡視活動を実施した。	活動指標	鳥獣保護管理員を前年度人員以上委嘱(人)	51	52	101%			
			5,157	5,157	807		成果指標	鳥獣保護区における鳥獣保護管理法違反発生数(件)	0	0	100%			
	ツシヤママネコ保護増殖事業費 自然環境課		14,692	0	4,825	一般県民、対馬市民、来島運転者 ツシヤママネコの生息状況モニタリング調査を実施するとともに、ツシヤママネコの交通事故防止キャンペーン等を実施した。	活動指標	生息状況(痕跡)調査実施ルート数(ルート)	60	60	100%			
			14,692	0	4,844		成果指標	生息状況モニタリング評価会議の開催(回)	1	1	100%			

取組項目	希少野生動植物保全事業費	自然環境課	1,040	1,040	8,042	一般県民	レッドリスト掲載種のモニタリング調査を実施するとともに、保護が必要な野生動植物種の捕獲・採取等を規制する地域指定を行った。	活動指標	希少野生動植物保全事業検討会の開催(回)	3	3	100%	専門家による会議を3回実施し、希少種の保全を検討した。新規に31種について全県若しくは一部地域の捕獲採取を規制する保存地域に指定し、既指定5種については保存地域を拡大し保護の充実を図った。
			1,237	1,237	8,074			成果指標	自然環境保全地域等指定数(件)	1	1	100%	
取組項目	負傷鳥獣救護活動強化事業費	自然環境課	5,500	5,500	804	一般県民、救護要請者	一般県民等から救護要請のあった負傷鳥獣を救護し、自然復帰を図った。	活動指標	救護業務の委託件数(件)	2	2	100%	佐世保市及び諫早市の救護センターにおいて、年間を通じ負傷鳥獣の救護を行い、42%を野生復帰させた。
			5,500	5,500	807			成果指標	負傷鳥獣の野生復帰率(%)	40	42	105%	
取組項目	自然観光資源回復事業	H27-30	4,653	2,327	5,629	自然公園来訪者、対馬市民、観光関係事業者、農林事業者、狩猟者	生態系被害の防止を図るため、壱岐対馬国定公園対馬地区龍良山周辺において、ニホンシカの捕獲(銃猟、わな猟)を実施した。	活動指標	協議会の開催数(回)	1	1	100%	シカによる希少植物の食害等が生じている壱岐対馬国定公園核心部の龍良山周辺で捕獲(銃猟、わな猟)を行い、希少種を食害から守った。専門家や地元関係者による協議会において捕獲事業の検討を行い、次年度事業に活かすこととした。
			5,000	2,500	5,651			成果指標	国定公園内でのシカの捕獲実施地域数(地域)	1	1	100%	

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

) 希少野生動植物種保存地域の指定などによる長崎県を特徴付ける動植物種や生態系の保全

希少種の捕獲採取の規制により保護を進めるとともに、既存の鳥獣保護区を維持し鳥獣の生息環境を保全し、また、国と協力して国内希少野生動植物種であるツシヤママネコの保護を推進している。今後も種及びその生息・生育環境の保全を推進する必要がある。

) 生物多様性に関する基礎データの収集・整備

専門家による県レッドリスト掲載種等の現地調査を行い、生息・生育状況や捕獲採取圧の把握を行い、基礎データを得ることができた。希少種については、環境変化等の影響を受けやすいので、引き続き生息・生育状況の継続的な把握が必要である。

) 行政、民間、NPOなど、多様な主体による保全活動の推進・支援

野鳥の会などの保護団体、動物の専門家である獣医師会及び狩猟の指導者などの協力が不可欠である。各種事業の推進に大きく寄与いただいております。引き続き事業への協力と支援をお願いしていく。

) シカの捕獲等管理強化による野生鳥獣の食害によって被害を受けている希少野生動植物の保全

希少な生物種や生態系の宝庫である対馬において、食害の原因であるシカの適正管理に向け、これまで捕獲(銃猟、わな猟)が行われていない国定公園の核心部周辺でシカの捕獲を実施した。今後も希少な生物種等に被害が生じている保護地域で、シカの管理(捕獲)を進める必要がある。

4. 29年度見直し内容及び30年度実施に向けた方向性

取組項目	事務事業名	29年度事業の実施にあたり見直した内容 (H29の新たな取組は「H29新規」等と記載、見直しがない場合は「-」と記載)	30年度事業の実施に向けた方向性		
			事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目	鳥獣保護費	-	-	本県を特徴付ける生物種や生態系の保全には、広域的な鳥獣保護区の設定や維持が不可欠であり、地域社会への影響が大きい鳥インフルエンザ対策も極めて必要性が高い。併せて生物多様性保全には県民や将来を担う子供達への普及啓発が必要であり、今後も継続が必要である。	現状維持
	狩猟取締費	-	-	鳥獣保護区での違法捕獲等の防止や、狩猟や有害捕獲の安全な実施、さらに鳥獣及び生息環境に関する情報の把握には、鳥獣保護管理員の巡視の継続が必要である。	現状維持
	ツシヤママネコ保護増殖事業費	-	-	長崎県を代表する希少生物であるツシヤママネコの生息状況は、引き続き厳しい状況にあり、保護対策の継続の必要がある。なお、本事業は、全額国からの委託事業である。	現状維持
取組項目	希少野生動植物保全事業費	-	-	本県の自然環境を代表する希少な生物種等は、開発などの外圧による生息・生育環境の悪化や環境変化の影響を受けていることから、専門家の現地調査等による状況把握を継続する必要がある。	現状維持
取組項目	負傷鳥獣救護活動強化事業費	-	-	一般県民等からの救護要請は引き続き多く、その救護には専門的な技術と経験が不可欠である。また、今後も人間活動との軋轢による野生鳥獣の負傷もあることから、救護活動の継続が必要である。	現状維持
取組項目	自然観光資源回復事業費	対馬地区において、これまでシカの捕獲が行われていなかった国定公園の核心部で、捕獲(銃猟、わな猟)を行った。		対馬におけるシカの捕獲については、これまで捕獲が行われておらず、希少植物の食害が生じていた地域で取組を始めたところであり、被害が許容できる範囲になるまで捕獲を行っていく必要がある。さらに、今後、希少野生動植物の生息・生育地においてシカの被害を防ぐため、国の制度等を活用した柵の設置等を検討していく。	改善